

香川の桃太郎はなぜ有名にならなかったのか

——橋本仙太郎の桃太郎話——

Why didn't Momotaro in Kagawa Become Famous?:
The Story of Momotaro by Sentaro Hashimoto

天野 佐代子
Sayoko Amano

はじめに

香川の桃太郎は、教育者で郷土史家の橋本仙太郎（1890-1940）が、1930(昭和5)年に『童話「桃太郎」の発祥地は讃岐の鬼無』を四国民報（四国新聞）に全50回連載し、桃太郎の発祥地は香川県高松市の鬼無（きなし）であると発表した。その翌年、1931(昭和6)年8月23日に、高松市沖合の島、女木島で大洞窟を発見した橋本は、女木島を鬼ヶ島とし、女木島に鬼ヶ島観光ブームを作った。橋本の桃太郎話は、稚武彦命が女木島に鬼征伐に行った話である。高松市の鬼無という地名は鬼がいなくなったという場所という意味で鬼征伐と深い関わりがあるとしている。

本研究は、橋本仙太郎の著書『童話「桃太郎」の発祥地は讃岐の鬼無』及び『鬼無伝説桃太郎さん鬼ヶ島征伐』から、橋本が香川が桃太郎話の発祥地であるとした根拠を検証し、地元研究者らの著書から、香川の桃太郎はなぜ有名にならなかったのか考察する。

香川の桃太郎研究家 橋本仙太郎

大隈重信との出会い

1914(大正3)年11月7日、大隈重信が汽車で琴平に向かう際、鬼無駅でしばらく停車したときのことである。鬼無の上笠居小学校の教師であった橋本は、引率していた小学生達と大隈重信の訓示を聞き、ひらめきを覚えた。その訓示とは、「此の駅は鬼無（おになし）かと思えば、鬼無（きなし）、中々面白い地名だと思う。兎角村人諸氏は地名のそのやう何卒心の中に鬼が無いやうに、個人も団体も皆益々向上発展に努力せられたい」¹⁾ というものであった。鬼無には鬼征伐の伝説や鬼征伐ゆかりの地名が残っていること、また橋本自身、観光客などから鬼無の地名の由来について度々尋ねられていたこともあり、大隈重信の訓示を聞いたあと、校務の余暇を利用して桃太郎伝説を研究し始めた。

橋本仙太郎の業績及び功績

- ① 1930(昭和5)年『童話「桃太郎」の発祥地は讃岐の鬼無』を四国民報に3か月間連載
- ② 1931(昭和6)年 女木島で人工の大洞窟を発見し、女木島を鬼ヶ島とし、鬼は瀬戸内海に住む海賊であるとした
- ③ 1932(昭和7)年『鬼無伝説桃太郎さん鬼ヶ島征伐』を発刊

橋本仙太郎の桃太郎話

橋本仙太郎の桃太郎話 (あらすじ)

昔々今からおよそ二千年前の大昔、鬼無にお爺さんとお婆さんが住んでいた。備讃海峡で暴威を振っていた鬼(海賊)は時々村に来て財宝を略奪したり、婦女子を凌辱するなどしていた。ある日、お爺さんは柴山(香川県高松市鬼無町)へ柴刈に、お婆さんは本津川(香川県高松市鬼無町)へ洗濯に出かけた。すると、立派な青年が船に乗って現れた。その青年は姉の倭迹迹日百襲姫命(香川県高松市一宮町田村神社)を訪ねるため、讃岐にやって来た稚武彦命であった。お婆さんは、稚武彦命(以下、桃太郎)を家に連れて帰り、老夫婦の養子とした。

たびたび備讃海峡を往復し、鬼退治の方法を研究していた桃太郎は、犬(岡山県岡山市犬島の住民)と猿(香川県綾歌郡綾川町猿王の住民)と雉(香川県高松市鬼無町雉ヶ谷の住民)に黍団子をやり、戦闘準備をして女木島へ鬼征伐に向かった。黍団子は兄の大吉備津彦命(岡山県岡山市吉備津神社)から土産にもらったものである。

桃太郎らは、生島(香川県高松市生島町)で鬼の子分が上陸してくるのを待って取り押さえ、鬼ヶ島(香川県高松市女木島)の岩窟まで案内させた。桃太郎らは岩窟入り口で鬼軍との石合戦を経て、洞窟の中へ進んでいった。鬼の子分の中には船で逃げるもの、岩窟の抜け穴から逃げるものもあったが、隅から隅まで残すところなく駆け回って鬼を退治した。岩窟の奥の堅牢道で隠れていた鬼の大将らは、桃太郎の威光に恐れ入り降参した。宝物を受け取った桃太郎は、鬼の大將に戒めの言葉を残して船で高松に戻る。しかし、その夜、改心したはずの鬼の大將と逃げ延びた鬼たちの逆襲に遭う。その鬼たちをも成敗したので、その場所を鬼無と呼び、桃太郎は鬼無権現として村人から祀られた。

橋本仙太郎の桃太郎考証を検証する

桃太郎の作者は菅原道真である

「菅原道真は、仁和2年(886)から寛平2年(890)までの4年間、讃岐国司の長官である「讃岐守(さぬきのかみ)」として讃岐で時を過ごしている」²⁾ 橋本は、「私は童話桃太郎の作者が、どんなに博学達識の大詩人であり、哲人であったにせよ、そこに真の史実の何かが実在しなかったとしたら、あれ程立派な筋書きをもつ堂々とした物語はととても得られまいと思う」³⁾と述べ、菅原道真

が漁師から聞いた話をまとめ、語り伝えたとした。

しかし、桃太郎の作者は菅原道真であるという説について、志田（1941）は、「桃太郎童話の作者は菅原道真であるという説は二様あり、一つは醍醐天皇の御幼時に考案して御話し申し上げたという傳、もう一つは道真が太宰府へ左遷されて土地の児童の為に考案して話したという傳がある。童話傳話や民話などは、その物の性質上その作者を考え得られぬのが普通であるから、是等のものに作者を擬したり所傳の作者に據つて制作年代を考へたりする事は固より徒事である」⁴⁾と述べており、菅原道真作者説を否定している。また滑川（1981）も「『桃太郎噺』の作者は菅原道真で、醍醐天皇の幼児期に話されたとか、筑紫に流されたとき、土地の子どもに語ったのが最初であるとか、『神皇正統記』を書いた北畠親房がその作者であるといった実証のない説もとりあげられている（西弐『桃太郎評釈』）。いずれも根拠徴証のない推測に過ぎない」⁵⁾と述べており、桃太郎の作者はいないとしている。

香川の桃太郎は皇族である

香川の桃太郎は、第七代孝靈天皇の第八皇子、稚武彦命である。兄は岡山の吉備津神社に祀られている大吉備津彦命、姉は高松市田村神社の御祭神である倭迹迹日百襲姫命である。稚武彦命は、鬼征伐かたがた非公式に讃岐の姉を訪問したとしている。橋本（2006）は、「当時は日本史とは言わず国史であり、皇国史観が幅を利かして一般的には皇紀が使われ、神武天皇も神話でありながら万世一系の皇室のルーツとされ、今日、歴史学で闕史とされている古代天皇も実在とされていた。橋本説もこの古代天皇の実在を前提に考証している」⁶⁾と述べている。

お婆さんは実は娘だった

橋本の桃太郎話では、桃太郎は子のなかった老夫婦の養子となったのであるが、子ども向けの童話である手前、娘と恋愛関係になったとは書けなかった。橋本は、お爺さんは山へ柴刈に、娘は川へ洗濯に行つて居たと見ることがよからうとし、川へ行ったのは実は娘であるとした。そこへ立派な桃太郎さんが川上から流れて来たので、互いに共鳴したとしている。

桃太郎の子孫は実在する

桃太郎の子孫は鬼無町に住む神高家である。橋本は、「老夫婦の家は、後継者がなかったものが、桃太郎さんによって、家をつかれ、鬼征伐後は桃太郎さんは、里人から『神高の神』と仰がれたので、此れから神高の姓がうまれて居るのである」⁷⁾と述べ、桃太郎は実在したと考えた。桃太郎の36代目子孫という神高祥浩氏への1990年ごろのインタビューによると、「神高家では代々この伝説を語り継いできたというわけではなく、郷土史家から指摘を受け、系図を調べるなど勉強を重ねてきたのだという」⁸⁾。

鬼ヶ島は女木島である

女木島の岩窟について、橋本は、江戸時代に滝沢馬琴の親友が讃岐に居たため、馬琴の絵草紙には岩屋で鬼退治をする桃太郎が描かれているとし、女木島は鬼ヶ島であると考えた。滝沢馬琴の親友とは、高松松平藩、江戸家老の木村黙老である。木村は馬琴に讃岐の仇討事件の経緯と結末を書いて届け、のちにこの仇討事件は滝沢馬琴著『兎園小説拾遺』に載せられたが、木村が讃岐の桃太

郎話を馬琴に伝えたという話は確認できなかった。

女木島には鬼征伐にまつわるわらべ歌がある

橋本は女木島に伝わるわらべ歌を著書の中で紹介している。

「向かいのばあさん チャのみにおいて 鬼が出るからよういかん 鬼は堅牢で伏せてある 堅牢の穴から覗きよる 弓と鉄砲じゃサツサとおいで」⁹⁾

「1543(天文12)年にポルトガル人を乗せた中国船が九州南方の種子島に漂着した。(中略)このとき島主の種子島時堯(1528-79)は、ポルトガル人の持っていた鉄砲(火縄銃)を求め、家臣にその使用法と製造法を学ばせた」¹⁰⁾ 鉄砲の伝来は、橋本の桃太郎話の時代設定よりずいぶん後のことであるため、女木島のわらべ歌と鬼征伐は関連性が低いと考えられる。

鬼無という地名の由来

橋本は、祖母から大昔鬼征伐をして鬼無と呼ぶようになったことは幼い時に聞いていた。研究を重ねる中で、鬼がおとなしく桃太郎に従ったとは考えにくいとし、逆襲してきた鬼を殲滅したことから鬼無という地名になったと考えた。しかし、『角川日本地名大辞典』によると、「寛永10年讃岐国絵図には「毛無」と見え、その由来は毛の木の意であるから木生(きなし)、鬼無は後世の当て字であろう」¹¹⁾と記載されている。

桃太郎の墓がある

鬼無権現宮(熊野権現桃太郎神社)には桃太郎の墓標石及び犬猿雉の石碑と老夫婦の祠がある。

『讃岐香川郡志』によれば、「昔此の里に鬼が住んでいて人に危害を加えて、百姓は大いに苦しんでいたのを熊野権現が是を誅せられて、人は大いに安堵した」¹²⁾との伝説の記載があるが、鬼征伐をしたのは稚武彦命であることについては、「境内には桃太郎墓及老夫婦を祀る縁組神及犬猿雉を祀る左堂神等がある。此の話は鬼という思想が此の時代にあったかという事が研究すべき点である。鬼は仏教思想から来たものである。日本の固有の思想にはないものである。仏教渡来は欽明天皇13年で四道將軍の派遣は崇神天皇の朝で其の間に六百年以上の時代錯誤がある」¹³⁾と記されており、稚武彦命と鬼は歴史的に合わない可能性がある。

女木島の歴史

女木島には鬼(海賊)が住んでいたか

女木島の歴史から、女木島は海賊の住処だったかを検証する。女木島は高松市の北4キロメートルの瀬戸内海に浮かぶ島で、高松港からフェリーでわずか20分の距離にある。女木島の名称の由来については、「海賊の根城であったことから女鬼島と書いたが、鬼の字を忌み嫌って女木島とした」¹⁴⁾という説、「屋島合戦のとき那須与一が射落した扇のメゲ(破片)が流れ着いてから、この島をメゲジマ、それがなまってメギジマと呼ぶようになった」¹⁵⁾という説など諸説ある。大洞窟については、「島の中央部、鷲ヶ峰の中腹あたりにあり、広さ4,000m²、奥行き400mである」¹⁶⁾。

女木島にはいつから人が住んでいたかについては、『讃岐香川郡志』に「雌雄島村には洞窟の出口

に貝塚がある（中略）貝塚からは弥生式厚手土器や薄手土器・角製器具・石器類が出た¹⁷⁾との記載があり、弥生時代には既に人が住んでいたと考えられる。

「古代より海上交通の要所であった瀬戸内海には、海賊等の横行が甚だしかったと同時に、大和朝廷によるこの地方の管理統制も充分に行われていた。瀬戸内海一帯の懐柔のため幾人かの皇子たちが派遣されている。その中に大吉備津彦命と倭迹迹日百襲姫命がいたことは、岡山県の吉備津神社、香川県の田村神社にそれぞれ祀られていることから知ることができる。大宝律令が制定され、貢租が中央に輸送され、新羅との交易が盛んになると、内海交通が発展するとともに、海上には海賊が出没するようになった¹⁸⁾」

「中世になると、海賊は組織化、統制化されて、その頭領は船大将、海賊大將軍と呼ばれ、多くの部下を従え、広い城を構えた豪族で立派な海の大名ともいえるようになった。1246(寛元4)年に鎌倉幕府の命により、香川郡司、藤左衛門家資は、備讃の海を荒らしまわっていた海賊を捕え六波羅に献じた。このことから、当時は塩飽諸島は勿論、直島・女木島・男木島などにもかなりの海賊がおり、付近の海岸を荒らしまわっていたことが分かる。これらの海賊は、単なる海賊ではなく、水軍の組織をもつものとなり、海外にも徐々に進出し始めた。これが発展して倭寇となった¹⁹⁾」

「近世の女木島は支配管轄関係が複雑で、天領（幕府の直轄地）のはじまりがいつであるかさえ十分に明かされていない。徳川の天下となっても男木島・女木島・直島は約70年にわたり、讃岐の豪族香西氏の一族で、秀吉の九州征伐で活躍した海賊・海商である高原氏の私領であったらしく、同氏没落後、これら3島はようやく天領となった²⁰⁾」

『女木島の歴史』によると、「洞窟そのものもその成立は自然に出来たものでもなく、又、鬼が住むためにつくられたものでもない。それは豊島石という凝灰岩を採取したあとであり、同類のものが男木島・直島・屋島などにも見られる²¹⁾との記述があり、大洞窟は歴史的に見ると採石場の跡地であるという。そして、「女木島が鬼が島になぞらえた事は、全く理由がないともいえない。豊島石をとったあとが洞窟になっており、それが中古・中世の海賊の横行時代に、彼らによって利用されたことはありえただろう²²⁾とし、大洞窟に海賊が住んでいたことは否定していない。

日本昔話桃太郎

日本昔話とは

昔話とは、「民間の人々が生活の中で伝えてきたもので、語り手が聞き手に語るという口頭伝承（口承）を基本的な伝承の様式として持つ、一定の型を備えた散文の物語。（中略）発端句や結末句（結句）を用いるなどして話の様式性や虚構性を重視する点を特徴とし、伝説や世間話と区別される²³⁾つまり昔話とは、遠い昔から人から人へと口づてに語り伝えられてきた物語であり、その内容は偽りである。

昔話桃太郎

「桃太郎」は人口に膾炙した昔話であり、五大昔話の一つである。五大昔話とは「桃太郎」「猿蟹

合戦」「舌切り雀」「花咲翁」「かちかち山」の五篇を指す。

『桃太郎噺』が、いわゆる口承の『昔噺』（民話）として成立した時期は、およそ室町末期（1550-1630）特にいわゆる戦国時代から江戸時代初期にかけて成立したとみるのが、ほぼ定説と
いっていいだろう²⁴⁾ 現在確認できる最古の出版物は、1723(享保8)年発刊の雛豆本「もゝ太郎」
である。花部(2021)は「文久年間(1861-64)までの180年の間に82点を超える赤本、黄表紙等の
草双紙が出版されている」²⁵⁾と述べ、「桃太郎」は江戸の出版文化で人気を博していたとしている。

今では、桃太郎は桃から生まれる「果生型」が広く知られているが、滑川(1981)は、桃太郎の
誕生について次のように述べている。「川上から流れてきた桃の実から生まれたという『果生型』と、
お爺さんとお婆さんが桃を食べて若返って桃太郎を生んだという『回春型』とがある。江戸期の文
献では回春型が先行しているようであるが、明治に近づくにつれて果生型に移行する。これは子ど
もが民話の聞き手として参加することが多くなったために無邪気に子ども向きに語り改めてきた過
程を示すものだろう」²⁶⁾

現在だれもが知っている「果生型桃太郎」の普及には検定教科書「桃太郎」の影響が大きい。
「明治20年に『小学校教科用書 尋常小學讀本』に『桃太郎』が登場し、また25年の山県悌三郎著
『小學國文讀本』にも『桃太郎』が載る。(中略)この『桃太郎』を全国の小学生児童が一斉に学ぶ
教科書の影響は甚大である」²⁷⁾ 橋本仙太郎は昭和15年に51歳で亡くなったが、存命中には教科書に桃
太郎が掲載されていた。橋本は、桃太郎話は国定教科書に掲載されているにもかかわらず、架空談
として扱われていることを遺憾に思い、約20年間、桃太郎の研究をしたのである。

桃太郎話の特徴

昔話は口承文学であるため、地域により形は様々である。しかし、「異常誕生」と「小さ子」とい
う共通する特徴を持つ。「異常誕生」とは、桃太郎や瓜子姫のように桃や瓜から生まれた主人公の異
常な誕生について語るものである。「小さ子」とは、「異常な出生をする物語の主人公は小さい姿で
人間世界に現れてくる。(中略)こういった異常な形をもって生まれた者も、その小さな形にかかわ
らず、人並み以上の働きをする」²⁸⁾という神性をもっている。橋本の桃太郎は、青年となった桃太郎
が船に乗ってきたため、どちらの特徴も持たない。

香川県民の反応

地元からの批判

1931(昭和6)年、橋本による女木島の大洞窟発見後、小さな漁港であった女木島に観光客が殺到
した。毎日数千人の観光客が来県し、北は樺太から南は台湾に至る遠方からの客もあった。橋本の
鬼ヶ島発見は、1934(昭和9)年3月16日に瀬戸内海国立公園が指定されたことと相まって、女木島
観光の火付け役となり、女木島は鬼ヶ島として、屋島や栗林公園と並び、高松市を代表する観光地
の一つとなった。

1956(昭和31)年女木島が高松市に編入された機会に、市当局から香川大学に人文・自然の両面か

ら学問的に研究調査したいという要望があり、『女木島の歴史』が発刊された。女木島の研究調査結果を踏まえ、城福（1957）は「たとえば橋本仙太郎氏のように、桃太郎は人皇第七代孝霊天皇の第八皇子稚武彦命、お供の犬は備前犬島の住人、猿は讃岐陶村の住人、雉は鬼無雉ヶ谷の住人という風に歴史的な事実と比定する（比定のしかたも、ずいぶんあやしげなものだが、それはともかくとして）ことになるといよいよとおかしなことになるのである。（中略）この意味で、鬼が島は女木島の事であるとか、鬼の岩屋は鷲ヶ峰の洞窟のことであると考えたり、更に桃太郎を一史上の実在の人物に比定したりするのは歴史と童話、事実と作り話を混同しているもので誤りも甚だしい」²⁹⁾と、橋本の桃太郎を完全否定している。

昔話の前提として、昔話は虚構の物語であることを認識しておかなければならない。稚武彦命のように具体的な登場人物が出てくるものは昔話ではない。それゆえに子孫も実在しない。しかし、地域振興や観光振興という観点から考えれば、香川の桃太郎を一蹴するのはあまりにも惜しい。

2004(平成16)年、香川学会での講演「桃太郎は実在したのか」で、津森明は次のように述べている。「橋本が地域を探り考証して女木島に洞窟を見つけたが戦後、大学の関係者が、橋本桃太郎は全くの作り話だとしてそれを受けて県も市も桃太郎ではなく鬼の方を観光に使っている。（中略）こうしていると桃太郎は完全に岡山のものになってしまう。桃太郎こそキャラクターだと再三言ったがもう駄目である」³⁰⁾

橋本の妻、雪枝は「戦後になっていろいろな方が、あれは創作に過ぎないと批判されていることを聞きました。夫が青春時代を投げ打って研究したことを知っていただけにかわいそうに思いました。（中略）橋本の研究は過去形にしてもらってもいいと思います。それより鬼ヶ島を訪ねた人たちが、楽しい童話のふるさと感じ、楽しんでくれるだけで洞窟発見と、伝説実証の成果はあったと思っています」³¹⁾と郷土史ブームを作った夫を労った。（昭和48年）

橋本の三女、岡敏子は「父の熱心な郷土研究ぶりには感心させられていましたが、地名研究には、なにか違和感を感じたことを覚えています。しかし『桃太郎サミット』で新たな脚光を浴び、再評価されることをうれしく思います」³²⁾と語った。（平成26年）

このように、行政関係者、大学関係者などが桃太郎話は香川が発祥地ではないとあまりにも真面目に捉えすぎ、橋本の桃太郎を全否定した結果、観光振興に使われなかったと考える。津森は、「桃太郎の話は夢がある話であり、真偽という詮索よりもロマンを求めその舞台を探す方が面白い。それが観光振興という地域振興策になるのであろう」³³⁾と述べ、橋本が郷土研究に先鞭をつけ、楽しい夢を生み出した功績は大きいと評価している。

橋本の死後、女木島は百科事典に「別称鬼ヶ島」と掲載されており、「桃太郎伝説の鬼のすみか」として高松市の観光名所となっている。

おわりに

昔話は架空の話であるため、発祥地はない。橋本は幼い頃に祖母から鬼無の鬼征伐の話聞き、

桃太郎は存在したと考えた。その根拠が橋本が発見した女木島の大洞窟であるが、昭和30年代の女木島調査研究により大洞窟が採石場の跡地であることが証明された。しかし、橋本の妻、雪枝の戦後になって橋本の桃太郎は創作であると多くの批判があったという証言は、逆に言えば、戦前批判はそれほどなかったといえる。それは雪枝が、『鬼無伝説桃太郎さん鬼ヶ島征伐』は何度も再版されかなり売れたと述べていることからわかる。いずれにせよ、香川の桃太郎は橋本を全否定したことから有名にならなかった。しかしながら、当時全国津々浦々から多くの観光客が訪れたこと、そして現在も女木島に「鬼ヶ島」という別称が使われていることは橋本の紛れもない功績である。

引用文献

- 1) 橋本仙太郎. (2014). 童話「桃太郎」の発祥は讃岐の鬼無(復刻) (p.4). 第13回桃太郎サミット高松実行委員会.
- 2) 香川県埋蔵文化財センター. 「菅原道真の足跡」.
(<https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/maibun/sanukikokuhu/smichizanoashiato.html>) (2024年7月16日10時10分)
- 3) 橋本仙太郎. (2006). 鬼無伝説桃太郎さん鬼ヶ島征伐 (p.3). 高松市歴史資料館友の会・讃岐村塾.
- 4) 志田義秀. (1941). 日本の伝説と童話 (pp.303-304). 大東出版社.
- 5) 滑川道夫. (1981). 桃太郎像の変容 (p.4). 東京書籍.
- 6) 橋本仙太郎. (2006). 鬼無伝説桃太郎さん鬼ヶ島征伐 (p.15). 高松市歴史資料館友の会・讃岐村塾.
- 7) 橋本仙太郎. (2014). 童話「桃太郎」の発祥は讃岐の鬼無(復刻) (p.143). 第13回桃太郎サミット高松実行委員会.
- 8) 吉村卓三. (1990). 1 / 1 億の桃太郎伝説 (p.160). メタモル出版.
- 9) 橋本仙太郎. (2006). 鬼無伝説桃太郎さん鬼ヶ島征伐 (p.66). 高松市歴史資料館友の会・讃岐村塾.
- 10) 加藤陽子・倉本一宏 他. (2017). 詳説日本史研究 (p.225). 山川出版社.
- 11) 角川日本地名大辞典編纂委員会編. (1985). 角川日本地名大辞典37香川県 (p.282). 角川書店.
- 12) 青井常太郎. (1944). 讃岐香川郡志 (p.435). 香川県教育会香川郡部会.
- 13) 青井常太郎. (1944). 讃岐香川郡志 (pp.436-437). 香川県教育会香川郡部会.
- 14) 米谷正義. (1937). 観光の高松 (p.84). 高松市観光協会.
- 15) 城福勇. (1957). 鬼ヶ島 (p.93). 高松商工観光課.
- 16) うどん県旅ネット. 「女木島」. (<https://www.mykagawa.jp/shimatabi/feature/shimatabi/megijima>) (2024年7月16日10時20分)
- 17) 青井常太郎. (1944). 讃岐香川郡志 (p.20). 香川県教育会香川郡部会.
- 18) 城福勇. (1957). 女木島の歴史 (pp.26-27). 香川大学学芸学部内地方史研究会.
- 19) 城福勇. (1957). 女木島の歴史 (pp.30-31). 香川大学学芸学部内地方史研究会.
- 20) 城福勇. (1957). 女木島の歴史 (pp.33-34). 香川大学学芸学部内地方史研究会.
- 21) 城福勇. (1957). 女木島の歴史 (p.75). 香川大学学芸学部内地方史研究会.
- 22) 城福勇. (1957). 鬼ヶ島 (p.107). 高松商工観光課.

- 23) 稲田浩二・稲田和子. (2018). 日本昔話ハンドブック新版 (p.240). 三省堂.
- 24) 滑川道夫. (1981). 桃太郎像の変容 (p.3). 東京書籍.
- 25) 花部英雄. (2021). 桃太郎の発生 (p.93). 三弥生書店.
- 26) 滑川道夫. (1981). 桃太郎像の変容 (p.4). 東京書籍.
- 27) 花部英雄. (2021). 桃太郎の発生 (p.25). 三弥生書店.
- 28) 稲田浩二・大島建彦 他. (1977). 日本昔話事典 (p.575). 弘文堂.
- 29) 城福勇. (1957). 女木島の歴史 (pp.75-76). 香川大学学芸学部内地方史研究会.
- 30) 橋本仙太郎. (2006). 鬼無伝説桃太郎さん鬼ヶ島征伐 (p.9). 高松市歴史資料館友の会・讃岐村塾.
- 31) 橋本仙太郎. (2006). 鬼無伝説桃太郎さん鬼ヶ島征伐 (p.23). 高松市歴史資料館友の会・讃岐村塾.
- 32) 橋本仙太郎. (2014). 童話「桃太郎」の発祥は讃岐の鬼無 (復刻) (p.221). 第13回桃太郎サミット高松実行委員会.
- 33) 橋本仙太郎. (2006). 鬼無伝説桃太郎さん鬼ヶ島征伐 (p.15). 高松市歴史資料館友の会・讃岐村塾.

参考文献

- 今岡重夫・津森明 他 (2006). 今なぜ桃太郎か：橋本仙太郎の「思いを考える」. 歴史民俗協会紀要. 高松市歴史民俗協会.
- 大石慎三郎・東原岩男. (1996). 江戸時代人づくり風土記³⁷ ふるさとの人と知恵 香川. 農山漁村文化協会.
- 津森明・森茂樹 他. (1982). 讃岐人物風景 (7). 大和学芸図書.
- 鳥越信. (2004). 桃太郎の運命. ミネルヴァ書房.
- 山本敏裕. (2014). ふるさと探訪 鬼無の桃太郎伝説を歩く. 高松市歴史民俗協会・高松市文化財保護協会他.
- 天理図書館. やまとの名品. <<https://www.tcl.gr.jp/wp-content/uploads/meihin057.pdf>> (2024年7月16日10時30分)
- ブリタニカ国際大百科事典6小項目事典. (1974). 株式会社ティビーエス・ブリタニカ.
- 日本大百科事典22. (1988). 小学館.

